



人権啓発標語

伝えよう 自分の気持ち 勇気を出して

菊陽南小学校 5年 本崎 正人(現在6年生)



「自分の気持ちを
しっかり伝えたい」

わたしは、ひる休みに、ローラーすべりだいで楽しんでいました。すると、2年生の男の子に「どけ。ばか。」

といわれました。なんでそんなことをいうのかなとおもって、いやなきもちになりました。そのあと先生にいつて、その男の子とはなしをしました。はなすまえは、ドキドキしていました。わたしは、男の子に「どうして、どけ、ばか」とききました。そしたら、その男の子は「どいてといっただけ、ど

「じろちゃんのさくぶん」のがくしゅうをして

菊陽中部小学校 1年 松本 玲奈(現在2年生)

いてくれなかったからいっ
てしまった。」
といいました。わたしは、
どいてといわれたのは気づ
いていませんでした。でも
はなしをきくと、その男の
子は、私に早くすべってほ
しかったということがわか
りました。だけど、わたし
は、ローラーすべりだいで
おりるところに水たまりが
あったし、ゆっくりおりて
いました。

だいがすきで、わたしのう
しろでまっているから、こ
んどからは早くおりるよ
うにしようとおもいまし
た。男の子のはなしをきい
て、じぶんもわかったな
とおもいました。男の子が
あやまってくれて、もうこ
んなことにならないよう
にしようとおもいました。が
んばってのはなしをしたので
、おわたあとはドキドキが
おさまりました。その男の
子ともまたなかよくあそび
たいなとおもいました。

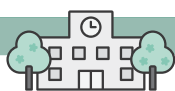
先生より

「じろちゃんのさくぶん」の学習を通して、じろちゃんの気
持ちを考えていきました。れいなさんは、「犬を蹴った5年生
も悪いし、噛みついてしまったじろちゃんも悪い。」と考えま
した。今回、れいなさんにも嫌なことがおきました。でも、そ
の気持ちをドキドキしながら相手に伝える事ができました。ま
た、相手の気持ちを受け止め、自分のことを振り返りながら聞
くこともできました。

何げなく使っている言葉から考える

議会だよりを読み返していたら、2019年2月号に「兄弟が別々の保育園に通園」という見出しがありま
した。また、7月号では「兄弟・姉妹が別の保育所に」と表記されていました。何げなく使っている「キョ
ウダイ」という言葉ですが、皆さんは文字で書くときどう表現しますか？原稿を書いている私は、兄が2人、
姉が2人の5人「キョウダイ」です。以前は「わたしは5人兄弟です。」と書いていました。しかし、最近
の新聞には「きょうだい選手躍動 北京五輪には、日本代表として10組20人のきょうだいが出場した。…」
(引用：讀賣新聞2022年2月21日号)や「ヤングケアラー初の実態調査 県は25日、きょうだいや家族の
世話を日常的に担う18歳未満の子ども『ヤングケアラー』・・・」(引用：熊本日日新聞2022年2月26日号)
の表記がありました。「兄弟」は男きょうだいの「兄(あに)弟(おとうと)」、「きょうだい」であれば「姉妹」
も含まれることとなります。「兄弟」「兄妹」「姉弟」「姉妹」という「きょうだい」もあるでしょう。しかし、
筆者の場合「5人兄弟」では姉たちの存在が見えないこととなります。私の中にある男性中心の考え方の反
映だったのでしょうか。今は、「5人きょうだい」の気持ちで語ったり表記したりしています。何げなく使っ
ている「キョウダイ」の表現の仕方ですが、そこから自分の社会認識や社会の仕組みを考えることができま
す。7月25日は「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(女性差別撤廃条約)」という国際
条約が日本で発効した日です。この機会に他にも何げなく使っている言葉を振り返ってみませんか。

町地域人権教育指導員 村上



学校だより 50

武蔵ヶ丘小学校

第49回 武蔵ヶ丘小運動会

武蔵ヶ丘小学校(根本まり子校長、全校児童
300人)は、学校教育目標「ちがいを豊かさ
に 自分に夢と自信を」を掲げ教育活動を進め
ています。5月28日に第49回運動会を開催しま
した。全校児童で考えた大会スローガン「ウル
トラハッピー! 団結し元気と笑顔がいっぱいの
運動会」となるように練習からみんなで助け
合って運動会に向け進んできました。6年生は
小学校最後の運動会、コロナ禍で多くの制限が
ありましたが、
学年リレーでパ
トンをつなぐ姿
には感動しまし
た。今年も6年
生をリーダーと
した児童会活動
との協働による
学校経営を進め
ていきます。



6年生リレー「つながりレー」の様子

きくよう文芸

5月

菊陽句会報

孝ならず考の終の忌青葉冷へ 紫藤 祥子
新樹光蹴散し過ぐる赤電車 曾我 育代
芍薬の蕾一斉に揃ひけり 曾我トモ子
写真よりスマホ画面の巣立鳥 緒方チエ子
燃えに燃えつゝ、じの赤さ妖艶に 米山るみ子
甦る戦中戦後昭和の日 吉田 幸子
黒焦げの阿蘇外輪や草青む 木村 信子
新緑に障子全開ティタイム 志賀キヨ子

牛の背何度も撫でて牧開き 今村サワ子
ただ生きる事の多さや春愁ひ 寺尾千代子
柿若葉揺れて血圧正常値 財津 早雪
鯉職そよぐ故郷母忌日 原野レイ子
ひとつには先づ父のこと遠霞 北川しんじ
尻尾まで喜びダンス牧開き 高橋 孝子
河川敷菜の花色に暮れてをり 田中 郁子
新緑の山を連ねて窓景色 佐藤 澄世

短歌会

豆腐屋と網戸張り替への声響くこの夕暮のかつてありたり
給食の注文今日は二十キロ出荷のキュウリは足りるだろうか
牡丹花を風はゆらりと揺らしたり落ちゆく花弁のあざやかにして
墨染を皐月の風にそよがせて白妙の襟ただす僧あり
吾が庭は木々の緑に囲われてハナミズキ白く風にそよげり
暖かき風吹き渡る海原に浮きて輝く鳴の群れあり
網持ちて菜の花畑の蝶を追う子らの帽子の白く輝く

有久 賢治
梅田 國雄
佐藤せい子
田中 成美
中村トシエ
馬場 礼子
松本 東亜